



## もくじ

原発の地震動に過小評価 耐震評価でくり返しの揺れを考慮せず …原発を止めて耐震評価のやり直しを！……	1
FFTV 紹介……	2
関西方面へ自主避難している方々の尿検査 ～検査を実施した方から嬉しい反応が～……	3
パンフレット紹介……	4
視覚化することで実感できる放射線の怖さ ～ガンマ線イメージ調査のこころみ～……	5
岩手で暮らしていて心配な放射能のこと……	7
活動日誌（10月20日～2月19日）……	8
会員・サポーター募集……	8

## フクロウの会

(福島老朽原発を考える会)

●フクロウの会は放射能汚染や事故の心配がなく、放射性廃棄物を生み出さない社会、すなわち原発のない社会をめざして首都圏で活動を続けてきた団体です。

●残念ながら福島で重大な事故が起きてしまいましたが、事故による人々の被ばくが少しでも少なく抑えられるよう事故直後から情報提供、放射能測定プロジェクト、国や自治体への働きかけなどの活動を行ってきました。

●そんなフクロウの会の様々な活動を支えるための会員・サポーター・資金カンパ募集中です。ご協力いただけますと幸いです。

### 【カンパ送り先】

●ゆうちょ銀行からの振替

・口座記号番号

00130-9-655439

・口座名称（漢字）

福島老朽原発を考える会

・口座名称（カナ）

フクシマロウキウゲンバツヨカンガ  
エルカイ

●他の金融機関からの振込

・銀行名＝ゆうちょ銀行

・金融機関コード 9900

・店番 019

・預金種目 当座

・店名 〇ー九 店（ゼロイチキユウ店）

・口座番号 0655439

フクロウの会（福島老朽原発を考える会）のブログ…<http://fukurou.txt-nifty.com/fukurou/>

## ◆原発の地震動に過小評価

## ◆耐震評価でくり返しの揺れを考慮せず

## …原発を止めて耐震評価のやり直しを！

熊本地震から、元原子力規制委員の島崎邦彦さんが、原発の耐震評価で、基準地震動を策定する際に用いられている経験式に大幅な過小評価があると警告を発し、波紋を広げています。

### ＜島崎さんの提言を受けて規制庁が再計算＞

島崎さんは、原発の基準地震動の算出に使われている経験式「入倉・三宅式」には過小評価があると、今年6月に他の式で評価するよう規制委に提言しました。熊本地震のデータが、入倉・三宅式の過小評価を明確に示したからです。島崎さんの提言を受けて規制庁は、7月13日に大飯原発の基準地震動について、「入倉・三宅式」に替えて「武村式」で計算した結果を出しました。入倉・三宅式で計算した元の基準地震動856ガルに対し、再計算結果は644ガルであったと説明し、小さい値が出たことから、見直しの必要はないとの結論でした。

### ＜島崎氏は「規制庁の過小評価」のからくりを暴いた＞

問題の経験式は、断層の長さや面積から、地震の規模を表す値を出すためのもので、同じ断層の条件で比較すると、武村式は入倉・三宅式の3～4倍（加速度では約1.5倍）になります。ですから、再計算により値が小さくなるというのは原理的にありえません。規制庁から個別に説明を受けた島崎氏は、自ら開いた記者会見でそのからくりを明らかにしました。島崎氏は、式を入れ替えるだけで、他の条件は関電が行ったやり方に従うよう提言していましたが、規制庁は、以下の二つの点で条件を変えていたのです。

第一に、再計算のベースとなる入倉・三宅式による加速度について、規制庁は関電よりも小さい値を用いていました。規制庁は、「関電から詳細なデータが得られず、関電の計算結果を再現できなかった」と説明しています。今回だけでなく、基準地震動の通常の審査でも、詳細な計算は「ブラックボックス」で、条件は確認していないといいます。これはこれで大問題です。

第二に、関電の計算では不確かさの考慮に係るすべてのケースで入倉・三宅式を用いていましたが、規制庁は武村式への入れ替えを基本ケースに限って行い、不確かさを考慮していませんでした。

他方で島崎さんは、再計算のベースとなる値を聞き出し、規制庁の計算結果では、武村式による基準地震動が入倉・三宅式の約1.8倍になることを明らかにしました。これが、規制庁による再計算の隠れたもう一つの結論でした。





## 関西方面へ自主避難している方々の尿検査 ～検査を実施した方から嬉しい反応が～



フクロウの会/放射能測定プロジェクトでは各地の団体・個人と連携して尿検査を継続しています。尿中のセシウムを測ることで体内への放射能の取り込み状況を把握し対策を考えることで、放射能の取り込みを減らして内部被ばくを減らすことができます。

今年度の尿検査の新たなこころみの一つとして、関西方面に自主避難している方々の尿検査を実施しました。検査を受けたのは5家族16名の方々でした。結果はいずれの方も不検出（検出限界0.02～0.05ベクレル/㍻）でした。

検査を受けられた方から感想のメールをいただきました。私たちの活動やそれを支えていただいている皆様にとっても励みになるものです。ご本人の了解を得て内容をご紹介します。

### \*\*\* 家族全員で検査を受けたAさんからのメール（抜粋） \*\*\*

結果は素直に喜んでます。

学校給食は食べさせているので、その点は心配がありました。私たち親は、避難してからさんまなど北の魚を一切口にしていませんが、子供たちは給食で食べたりしていましたから。

「これまで主に福島県周辺で調査してきたため、水やコメ、野菜などに注意していても検出される方が多くいらっしゃるのが実態です。」・・・とのこと。この文を借りて質問をさせていただいてもよろしいでしょうか？

その原因はどのようにお考えですか？初期の被曝が大きかったということなのでしょうか？ それとも、その地の汚染度がどうしても数値に表れてしまうのでしょうか？

結果的に、避難さえできればよいのですが、なかなか現実は大変です。幸いにも自営なので自力で仕事をつくってはいますが、借金は5年前の3倍くらいになっていますし、売り上げが当時を超えることはなく、厳しい経営は続いています。福島の家は潰れていくばかりで、帰宅修理は二の次で、こちらの生活でいっぱいっぴいっぴいですね。

そんな中でも、今回の検査結果は、嬉しく なによりの支援となったことは確かです。私達の考えが間違いなかったのだと、証明していただいたようなものです。ありがとうございました。やはり、子供優先で動くことが正解なのですね。

昨今の震災が過去になりつつある社会情勢で運営の大変ななか、今回の無料検査をしていただきとても感謝しています。ありがとうございました。私達のデータが、これから福島でアクションを起こそうとしている家族の何か役に立つことがあればいいな、と考えつつ・・・。

### \*\*\* Aさんの質問に返信した後、再びいただいたメールから \*\*\*

「事故後5年経ってもまだ尿から検出されるのは、食べ物や呼吸から放射能を含んだ土埃を取り込んでいることが考えられます。『食べ物の産地を変えた』『砂場遊びを控えた』等により、再検査で検出しなくなる例もたくさんあります。食べ物、ホコリどちらかを一概に言うことはできません。人により原因は異なっている（あるいは両方）のが実態です」・・・とのこと 興味深いですね。それだけ日常に近いところにあるということですね。

こちらにきて思うのは、福島ほど風が吹かないということです。冬にかかわらず、福島では常に上空に風が吹いていた印象があります。それにより、乾燥もしやすく、ほこりも舞い易いということもあるのでしょうかね。空が青かったのは、そういうことだったのか・・・と今になり 懐かしく 悔しく思う日々です。

今後より活動は厳しくなるものだと思います。ご自愛なさってください。ありがとうございました



追伸 一部訂正です。

「私達の考えが間違いなかったのだと、証明していただいたようなものです。ありがとうございました。やはり、子供優先で動くことが正解なのですね。」・・・とありますが正しくは「女房の考えが間違いなかったのだと、証明していただいたようなものです。ありがとうございました。やはり、母親の直感重視で動いたことが正解だったのですね」というところが正直なところでした（笑）

\*\*\*\*\* メール引用ここまで \*\*\*\*\*

最近の状況の中で各地に散らばっている自主避難者をはじめとして原発事故被害者は様々な困難を抱えています。そのような中で私たちの行っている尿検査が少しでも役立てば・・・との思いから今回の検査を実施しました。尿検査は継続して実施中です。ご希望などあればお問合せ下さい。

fukurounokai@gmail.com 090-7245-7761 青木一政

【資料】Aさん一家の生活状況アンケートから

- コメは京都産、島根産。水は山の湧水。野菜は品種や季節により自家と地場（京都産）を主体として。肉、魚の摂取は全体の1-2割以下。
- 子どもの学校給食は昨年のリクエストを若干取り入れてもらえた？西日本産材料使用に、学校が今年から言及開始。



## パンフレット紹介

### 「福島の子どもたちの尿検査から見えてきたもの」

Vol. 2～Vol. 5（カンパ1冊500円）※Vol. 1は現在絶版になっています。

### 「フクロウの会年次報告 2015 Annual Report 核のない社会をめざして」

2016年5月15日発行 A4版 全36ページ カンパ1冊500円

フクロウの会の活動報告をパンフレットにしました！ぜひご覧ください。  
今回は年次報告として2015年度のフクロウの全活動を網羅する内容の濃いものです。  
尿検査パンフレット Vol. 5以降も引き続き進めている尿検査結果もこちらに掲載しております。

☆入手ご希望の方は件名を「パンフレット希望」としていただいて、ご希望のパンフレット名、冊数、送付先（郵便番号、住所）、氏名をご連絡ください。

申込 メール fukurou.report2015@gmail.com FAX 03-5225-7214

☆カンパ+送料は振り込み用紙を同封しますので受け取り後振り込んで下さい。





## 視覚化することで実感できる放射線の怖さ ～ガンマ線イメージング調査のこころみ～

放射能は色も匂いもせず味もしません。福島原発事故で環境中にばら撒かれた放射能に、もし仮に匂いがしたり色がついていたとしたら、政府・東電がいま進めているでたらめな対応は、全く違ったものになっていたでしょう。

フクロウの会／放射能測定プロジェクトはこの夏、ちくりん舎やたまあじさいの会、小澤洋一氏（南相馬・避難勧奨地域の会）、深田和秀氏（風下の会）と共同で放射能汚染の実態を視覚的にとらえるガンマ線イメージングを試みました。

最初にまずこの写真（写真1、写真2）をご覧ください。これは南相馬市原町区高倉のS氏宅とその後方にあるいぐね（屋敷林）を庭から捕らえた画像です。

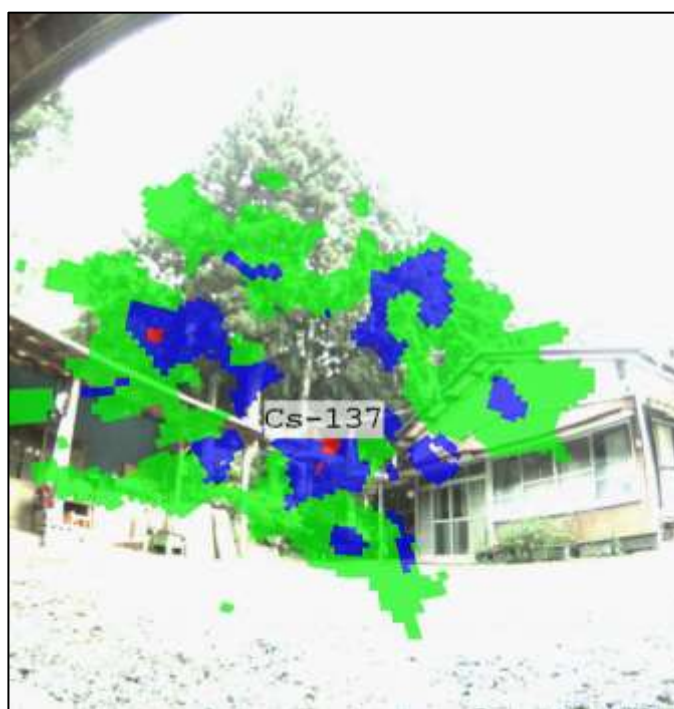


写真1 S氏宅のガンマ線イメージング



写真2 S氏宅の様子写真

いぐね（屋敷林）の高さ3m、5m程度のところに2か所、赤で色付けされた最も高い場所があり、その周辺に青、緑で色づけされた線量の高い場所が広がっているのが分かります。いぐね全体にまだらに、青、緑で色づけされた高い場所があります。屋根や軒、軒下部分にもまだら上に、青、緑部分があります。空間線量率調査では、屋内でいぐね側に面した台所の天井(0.452  $\mu$ Sv/h)、2階階段踊り場天井部(0.510  $\mu$ Sv/h)が屋外と同レベルに高い値です。屋根は除染を実施していますので、屋内の高い位置の線量が高いのは、いぐねからの放射線によると推定できます（図1参照）。

写真3、4は南相馬市原町区馬場のH氏宅の廊下から玄関わき方向を撮ったものです。このお宅では玄関両側の雨どい下周辺の線量が高いことが分かっています(0.24  $\mu$ Sv/h)。母屋廊下から玄関方向を撮った写真では、線量の高かった雨どい下周辺に最も強い表示があり、廊下にも2-3か所強い部分があります。廊下の線量の高い部分は廊下自体の汚染ではなく、床下地面からの放射線と推定されます。

これらの実態は、サーベイメータ（放射線測定器）で空間線量率を丹念に調査することでも分かります。しかし、サーベイメータでの測定は数値が並んでいるだけです。これらの数値から、どの辺りに汚染が集中し、どのように放射線が飛んでいるのかを頭の中で組み立てなければなりません。これは慣れていないとなかな



か難しくあまり実感として捕らえることができません。しかし、画像で見ればどの辺りに汚染が集中し放射線が飛んできているのか視覚的に実感を伴って理解することができます。

南相馬避難20ミリ基準撤回裁判では、国側は軒先と庭の真ん中で測った放射線量を根拠にして、年間20ミリ以下だから避難指定は解除すると主張しており、家や地域の生活環境のホットスポットの実態を全く無視しています。裁判所に対しては、ち密な測定データを証拠として提出していますが、汚染実態をより具体的に裁判所に理解させるにはこのような画像データも有効なのではないでしょうか。

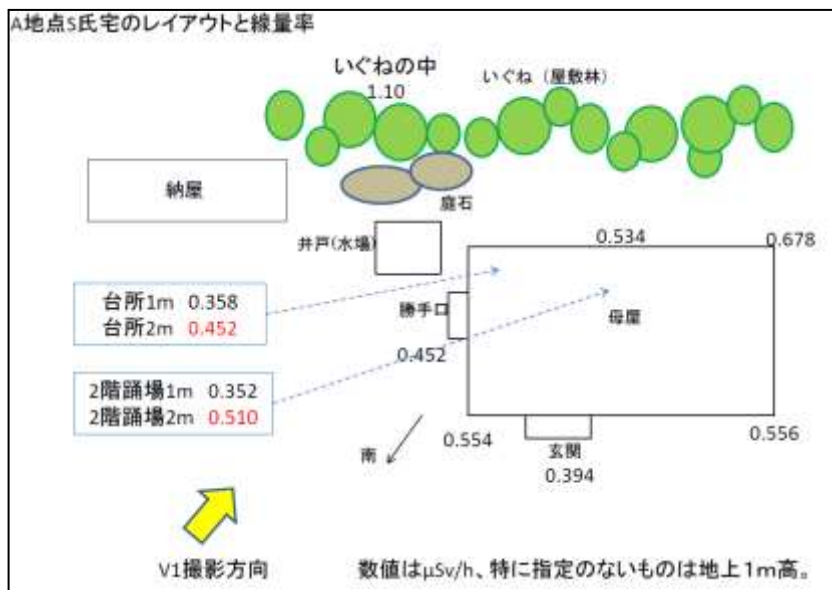


図1 S氏宅周辺の平面図



写真3 H氏宅廊下のガンマ線イメージング



写真4 H氏宅廊下の様子写真

今回の測定はコンプトンカメラという特殊な装置を使って、放射線の一種であるガンマ線の強弱で画像を撮影する手法で、ガンマ線イメージングともいわれます。この手法は裁判資料だけでなく、除染や被ばく防護のためにも大変有効に使いそうです。今回の試みでは、福島周辺のように環境全体に放射能が拡散して全体に線量が高い地域で、実際に画像がうまくとれるのかどうか、不明な部分もありました。しかし、今回のテストで条件が良ければ十分使いそうな見通しを得たことは大きな成果と考えます。

難点はこの装置が非常に高価で取り扱いも難しい点です。残念ながらこの装置を市民レベルで使いこなしてゆくのはまだまだ大きな壁があることも分かりました。しかし放射能との闘いは長く続きます。そのような闘いの中での一つの手段としてこうした試みを研究者やメーカーの専門家だけでなく、私たち市民も経験したことの意義は大きいと考えます。

※今回の調査は放射線計測機を扱う商社である二木工芸(株) (NIKI GLASS CO., LTD) 放射線計測グループの全面的な協力により実現しました。ここに紹介して感謝の意を表したいと思います。大変ありがとうございました。仁木工芸放射線計測グループのHPはこちら。

<http://www.nikiglass.co.jp/products/radiation/radiation.html>



サポーターさんより

## 岩手で暮らしていて心配な放射能のこと



岩手県は南北に約 190 キロ、東西に約 120 キロで北海道に次いで広い面積をもつ県です。その中央を北上川が流れ、その左右に北上山地と奥羽山脈が広がっています。岩手は、北上川沿いを吹いた風と、海側から吹いた風によって主に汚染されたと言われています。県中部にある盛岡市では、その汚染度合は様々で、平地の土壌調査でも数Bq/kg から 500 Bq/kg 程度などの報告があります。県南 3 市町村では汚染状況重点調査地域に指定されていますが、それ以北でも北上川沿いや山間に、ぽつぽつと基準値越えの農林副産物等が報告されています。

いま、これらの農林副産物が各地で焼却処理されています。燃やせば周囲に再拡散すると聞きます。岩手では東日本大震災で、ほぼ全域に放射能が降りましたが、さらに被ばくすることをとても心配しています。私は子どもたちがまだ小さく不安でしたので、2013 年に盛岡周辺の数名のお母さん達と、被ばくを防ぐために測定費用を負担し合いデータや情報を共有する測る会を始めました。また、測る会とは別に、被ばく問題を中心に他団体の要望等に賛同したりしています。主婦である私みたいな人も意思表示することが大事との思いでいます。ここでは、岩手県の放射能ゴミの焼却について書かせていただきます。

## ～農林副産物の焼却～

岩手県内 33 市町村中、盛岡も含め 24 市町村で約 3 万 8 千トンの基準値越えした農林副産物（牧草、稲わら、堆肥、ホダ木等）が発生しています（26 年 5 月 31 日）。その中には指定廃棄物に申請されていない 8000 Bq 越えのものもあります。そして、その大部分が（8 千越えのもの一部まで含む）各自自治体の焼却炉で、一般ごみに混ぜて薄めて焼くという処理が行われています。

行政の説明会では地区の方々の了解を得るといいますが、私の知る限りでは、どの地区でも反対している方々がいらっしゃいます。焼却を容認される方からは「農家さんから早く処理してくれと言われていた」とよく言われますが、農家さんからは「どけてほしいと言っているが燃やしてほしいとは言っていない」と聞きます。

岩手県に、県内の自治体ごとの発生量と処理量を開示請求しました。すると、紙面全面黒塗りで開示されました。理由は風評被害を避ける為というのですが、私ならばよくわからないものは買わないので、

放射能対策を公開しないことは、むしろ風評被害を助長するのではないかと思います。

また、技術者の方で、環境省の排ガスの放射能測定の方法がおかしいという指摘をされ、他の測定方法を提案されている方がいらっしまったので、盛岡市議会に対して、提案されている方法で排ガスの安全確認をさせてほしいとお願いしました。環境省の排ガス方法についての問題点と提案方法は、提案されている技術者の方に議会でもお話し頂きました。その成果か、担当の委員会でも過半数賛成となりました。ところが、排ガスの安全確認は、その後の議会で不採択となりました。なんのための委員会でしょうか。あれこれ書いてしまいましたが、どこも無理矢理燃やしているとしか思えない状況です。微量でも汚染物を薄めて燃やすという事は辞めてほしい、薄めないで保管してほしいと思っています。これ以上無駄な被曝はしたくないのです。

そして、特に不安なのは、岩手で今後ますます高い濃度の汚染物を引き受けなければならなくなるのではないかとこの事です。実際、盛岡では今とんでもない計画が予定されています。それは、盛岡市含む周辺 8 市町村でごみ処理を広域化し、既存 6 焼却施設を 1 か所に集約して大型焼却炉で処理しようとするものです。広域化だけでも必要性が問われますが、さらに、大規模災害が発生した時の災害廃棄物の処理のために焼却炉に余裕をもたせるとされています。放射能ゴミが増える一方の日本で、このままではどんどんどんどん高い汚染度を引き受けなければならなくなるのではないかと心配しています。

## ～リネン吸着プロジェクトに参加して～

汚染物焼却のことばかり書きましたが、県内全域で規制されていない野焼き、増えるバイオマス発電、給食など沢山の不安があります。様々危険性が発信されていますが、それらの最新の本当のお話を地方の公民館でお聞きしたいのです。同じ学校、同じ地区単位で少しでも多くの方と考えることができないと、日々の生活がなかなか変わらないからです。リネンの報告会を田舎の小さな会場でも行って頂き、また少し広がって行けると思います。リネン吸着プロジェクトは、気軽に誰でも参加しやすいと期待しています。尿検査も欠かせません。どうぞこれからもよろしくお願いします。

M. T



活動日誌  
(2月19日～9月26日)

2月

- 19日 フクロウ通信 27号
- 25日 高浜発電所4号機の管理区域内における放射性物質を含む一次冷却水漏れについて署名提出と政府交渉

3月

- 9日 高浜原発4号機緊急停止事故・抗議署名提出
- 22日 パブコメ・ワークショップ 高浜1・2号機40年超え老朽原発の運転にノーを!
- 30日 高浜4号機緊急停止・抗議署名の二次提出  
抗議アピールと要請

4月

- 3日 APAST 講演会「『原発からの命の守り方』を考える」にて講演 青木
- 20日 高浜原発1・2号機の原子炉設置変更許可に抗議声明
- 25日 40年超え老朽炉を廃炉に/川内原発直ちに停止を! 政府交渉
- 26日 プラント技術者の会定例会にて「バグフィルターの除去性能」について報告 青木

5月

- 14日 フクロウカフェ
- 15日 フクロウの会年次報告 2015
- 19日 宮城県白石市「みちのく政経塾」にて講演 青木

6月

- 8日 対政府交渉「『8000Bq/kg以下の除染土の公共事業への再利用』の撤回を」にて報告 青木
- 13日 原発老朽化と耐震安全性学習会
- 21日 FMラジオJ-WAVE 堀潤のジャム・ザ・ワールドにて電話出演 阪上
- 29日 40年超え老朽炉を廃炉に! 署名提出と院内集会

7月

- 20日 南相馬避難基準 20ミリ撤回裁判原告団学習会にて報告 青木  
入倉・三宅式の過小評価を熊本地震が証明共同声明
- 20~22日 南相馬市原町区、富岡町の汚染実態調査
- 26日 原発の地震動見直しと美浜3号審査中止を求める緊急要請・院内集会
- 31日 ごみ弁連総会にて報告 青木

8月

- 3日 美浜3号炉・審査書案を認めるな! アピール行動

9月

- 3日 八王子ハカルワカル広場9月度お茶会にて講演 青木
- 9日 原発の耐震性/避難問題 院内集会&政府交渉
- 10日 高木基金NPO法人設立15周年記念公開フォーラムにて事例報告3件中の1件として報告。同パネルディスカッションのパネラーとして発言 青木
- 11日 岩手県一関大東清掃センター周辺調査。「寺崎前地区の環境を守るかい」例会にて報告 青木
- 12日 岩手県盛岡市岩手玉山清掃事務所周辺調査。「測る会」学習会にて講演 青木

「福島ぼかばかプロジェクト」、「原子力規制を監視する市民の会」、「放射線被ばくと健康管理のあり方に関する市民・専門家委員会」、「FFTV」、「ちくりん舎」など他団体と共同での活動も行っています。

フクロウの会では、会員・サポーターを募集中です。会員・サポーターには通信を郵送します。

【会費】・会員 1000 円/月 ・サポーター1000 円以上/年

●集会でのスタッフやパンフ作成のご協力など一緒に活動していただける方を募集しています。

●皆さまの貴重なご意見もお待ちしております。

フクロウの会の趣旨にご賛同いただき、会員・サポーターになっていただける方は、フクロウカフェなどにお越しの際に申込書にご記入の上、会費を添えてフクロウの会事務局員にお渡しください。

【お問い合わせ・お申し込み先】

TEL : 03-5225-7213 FAX : 03-5225-7214 Email : fukurounokai@gmail.com

(通信郵送のお申し込みもこちらで受け付けています☆ご希望の方はお知らせください。)

